

# 手と手をつないで

No.376

やまぐち ひろゆき  
山口 裕之

(マザー・アース人権啓発研究所主宰)



## 豊かな「学び」が 未来を拓く

秋も深まり、年の瀬が近づくを感じさせる季節となりました。本年はコロナ禍の継続、長引くロシアによるウクライナ侵攻、物価高騰「世界同時不況」とも言われる厳しい時代の幕開けともなりました。そのような中でも私たちは、全員で力で貧困をなくす・飢餓をゼロに・すべての人に健康と福祉を・人や国の不平等をなくす・平和と公正をすべての人になど、持続可能な開発目標（SDGs 17の目標）を達成し、環境・共生・人権・平和を尊重する社会を築く必要があります。そのためには、私たちが、豊かな「学び」を身につける必要があります。私たち一人一人が豊かな「学び」を身につけた中で、多くの人々とつながり、行動することが持続可能な開発目標を達成していくと考えています。今回は、豊かな「学び」について考えてみましょう。

### アクティブ・ラーニング

近年、学校教育では、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」も重視した学習、アクティブ・ラーニングという学習方法が大切にされていきます。簡単に言うと、従来の受動的な授業や学習とは真逆の積極的で能動的な授業や学習のことです。

アクティブ・ラーニングでは、認知的・倫理的・社会的能力・教養・知識・経験を養う学習方法のため、自ら主体的に行動し考えることを覚えます。また、多数の価値観に耳を傾けて相手の考えを認め、尊重する姿勢を学ぶことができます。

この学習方法を実施すると、次のような資質・能力を育成することができるのです。

- ・蓄積してきた一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」という感動を伴い、見通しをもって粘り強く取り組める。
- ・周りの人たちと共に考える学び、新しい発見や豊かな発想を生み出せる。

・自分の学びを振り返り、次の学びの展開や生活に生かす力を育む。

この資質・能力が、やがて感性を豊かに働かせ、どのような未来にしていきたいのか、どのような社会や人生が本当に豊かなのかを自ら考え出し、よりよい社会を築いていくのです。本市の1つの事例で考えてみましょう。

### ウクライナ避難民学生支援

ロシアによるウクライナ侵攻より、たくさんの方々がウクライナの人々が世界の国々に避難しました。本市にある日本経済大学は、3月からウクライナの避難民の学生70人を受け入れました。

本市も非核・平和宣言都市として日本経済大学に賛同し、全国に先駆けてガバメントクラウドファンディングと募金箱による義援金の受け付けを行いました。3月17日～6月30日までに寄付いただいた金額は、14,319,440円。このことで、授業料の全額無償化を支援し、安全で安心

な居住環境の確保、継続した学びの機会を提供できました。

この2つの行動は、豊かな「学び」による積極的な行動だと思いませんか。日本経済大学と本市が感性を豊かに働かせながら、ウクライナの平和やウクライナの学生の皆さんの人生がよりよくなるように、どうすることがよいのかを考え出し、実行した結果だと考えています。

よりよい太宰府市が築かれています。一人一人の豊かな「学び」が未来を拓きます。

